この驚くべき発育差の原因はなんでしょう?

右の写真は、小松菜の真砂土で反当たり20袋の施肥量のヒラノ鶏糞と一般発酵鶏糞との試験例です。

平野の鶏糞効果試験

枯草菌入

油かす、化学肥料に比べて割安!!
簡単・完全有機肥料栽培

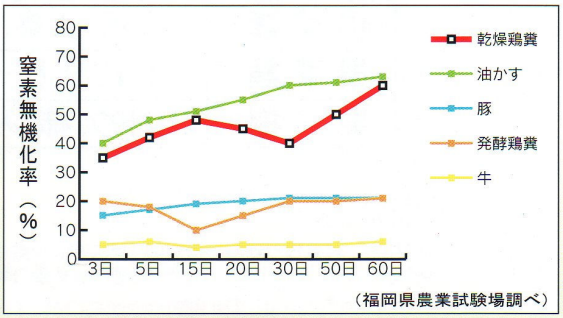
ヒラノのペレット鶏糞

一発肥料施肥も可能

乾燥ペレット鶏糞分析値の例(農業試験場調べ)

水分	窒素	リン酸	カリ	石灰	苦土	PH
18.3	4.15	4.3	3.0	11.1	1.1	7.8

※ 但し、カルシウム分が高いのでハウスはご注意下さい。



(福岡県農業試験場調べ)

※上記の表からもヒラノのペレット鶏糞は有機肥料として高い無機化率を示してます。

1. 一般の発酵鶏糞とは全く違う**4～5倍**の即効性ですから化学肥料並の使い方をして下さい。水田の一発施肥。
2. 化学肥料なみの施肥計算で全ての作物、水稲、麦、果菜、果樹等に安心して施肥できます。
3. 大量の枯草菌を含有していて土壌改善、地力向上の効果が高い。
   鶏糞1グラム当たり500,000個の枯草菌を含有しています。
   土壌の団粒化、植物病菌の抑止に高い効果が認められています。
4. 径5mmのペレットで、機械散布が容易です。
5. 年間(5600ｔ)の出荷実績を誇る有機肥料。

(株)平野養鶏場
福岡県朝倉郡筑前町東小田793番地
TEL 0946-42-2147
FAX 0946-42-4651

ヒラノのペレット鶏糞水稲社内試験結果

※化学肥料は横綱元肥(14-16-14-MG4)を使用

平成13年朝倉郡夜須町圃場

		反当基肥（単位：kg）		反当穂肥（単位：kg）		結果				
区	品種	ヒラノ	化学	ヒラノ	化学	坪当り株数	穂数	倒伏	反当kg	玄米蛋白%
1	ヒノヒカリ	—	44	22	—	60	17.7	なし	618	6.17
2	ヒノヒカリ	80	30	—	22	60	17.0	なし	624	6.22
3	ヒノヒカリ	140	22	—	22	60	17.0	なし	624	5.92
4	ヒノヒカリ	200	12	—	22	60	17.5	なし	630	6.02
5	ヒノヒカリ	200	12	130	—	60	17.8	なし	612	6.07
6	ヒノヒカリ	260	—	—	—	60	18.0	なし	672	7.08
7	ヒノヒカリ	300	—	—	—	60	18.9	なし	630	6.22
8	ヒノヒカリ	260	—	—	—	60	21.4	なし	558	6.27
9	ヒノヒカリ	320	—	—	—	40	26.1	一部なびく	558	6.47
10	ヒノヒカリ	400	—	—	—	40	26.8	倒伏多し	588	6.88

※施肥時時　田植え10日前(6月10日頃)

施肥量の目安(10a 当たり)

葉菜類	キャベツ、レタス、ホウレンソウ、小松菜	8～15袋
根菜類	大根、人参、ゴボウ、タマネギ、さつまいも	7～10袋
果菜類	キュウリ、ピーマン、ナス	7～10袋
果　樹	ブドウ、柿、みかん、栗	5～10袋

枯草菌とは?

枯草菌は、自然界で野原の草や落ち葉の間に少数が生息している微生物で、増殖率は極めて旺盛な善玉菌です。
枯草菌は納豆菌の仲間で、増殖する時には多量の酸素をだし、有害な病原菌は分解し、その存在を許さない強い作用を持っています。

ヒラノのペレット鶏糞には500,000個／g以上の枯草菌!

平野養鶏場は鶏の健康のため、一般の枯草菌の10倍に相当する菌を、飼料に連続して添加しています。
枯草菌は乾燥したり、生存に不利な環境下では胞子の状態になって生き続ける能力を持っているため、
ペレット加工の100℃の高温にも耐え、ペレット鶏糞の中に、1g当たり500,000個以上の胞子が、
生き続けていることが検査の結果から判明しています。

枯草菌で土壌は団粒化してふわふわの農地に!

この胞子は、水分を吸い、温度が15℃以上になると発芽して、有機肥料をエサにして増殖を始めます。
ネバネバの粘液を分泌しながら土壌を団粒化させます。
こうした通気性のある土壌には微生物による菌耕(微生物が土壌を耕すこと)が日夜休みなく続き、
ふかふかの柔らな農地に変わります。

発酵鶏糞とは微生物の数が著しく違います!

一般の発酵鶏糞は発酵処理の段階では微生物が増殖しますが、高温を発し、発酵が終了する段階では急速に死滅して
微生物の菌数は減少します。その上、一般の微生物の殆どは、胞子を作って生き延びる知恵を持ち合わせていないため、
ペレット加工の段階で、更に減少してしまい、通常は1g当たり500個程度の菌数で、
ヒラノのペレット鶏糞の1／100程度しか生存していません。このため、ヒラノのペレット鶏糞を施肥した農地では、
他の鶏糞とは全く異なった高い成果が期待できます。

● お申し込み：お問い合わせは各営農センターへ